



新九郎通信

発行 小田原市栄町 2-13-3 (株) 伊勢治書店 3F ギャラリー新九郎 木下泰徳
 メール配信サービスご希望の方は右記アドレスへお申込みを e-mail:kinoshita@iseji.net

朝日に輝く水面、月を映す夜景の幻想的な美しさ。田に水が入ると、一変する栢山の景色は、この時期だけの自然のプレゼントです。いつのまにか田植も終え、夕方から始まる蛙の合唱が見事です。鮎の解禁と共に、また酒匂川が賑わう季節になりました。我が家の庭にも、アジサイが可愛い蕾をつけています。草むしりに花壇の入れ替え、よしずりにグリーンカーテンの準備、梅酒に梅干し作り、衣替えに洗濯。梅雨の前にやっておく仕事がいっぱいな忙しい6月が始まります。6月の新九郎は、本格的な見ごたえある展示が続きます。皆様のご来場お待ちしております。



新九郎 6月の展覧会のご案内

近隣・友の会会員の展覧会情報

	会期 展覧会名	見どころ
	6/3 (水) ~6/8 (月) 第2回 グループ展	会員6名、招待作家2名 県西地域、具象系実力派作家の 展覧会
	6/17 (水) ~22 (月) 第7回フレンズ絵画展	風景画、花、静物等の油彩画、 水彩画の展覧会、会員24名、 約45点
	6/19 (金) 新九郎デッサン会	どなたでもお気軽にどうぞ！ 18:15-20:45 会費1500円 コスチューム、固定ポーズ
	6/24 (水) ~29 (月) 第2回長山武夫写真展	野鳥、風景、ロマンスカー、花 と蝶等、身の回りの美を写す

会期・展覧会名	会場
6/4 (木) ~6/7 (日) 第42回修朴会書作展	飛鳥画廊 0465-24-2411
6/24 (水) ~6/29 (月) 第22回 一線美術会小田原グループ展	飛鳥画廊 0465-24-2411
6/4 (木) ~6/8 (月) レザークラフト&アートシヅル展	アオキ画廊 1F 0465-22-0825
6/2 (火) ~6/14 (日) 志村のどか Work 展	すどう美術館 0465-36-0739
6/12 (金) ~6/23 (火) 水木休 鈴木隆作陶展	ギャラリーさざれ石 0463-67-9662
6/5 (金) ~6/15 (月) 曾我定昭写真展-幽彩天城の森-	ぎやらりーぜん 0463-83-4031
6/9 (火) ~6/14 (日) 2015 春季 湯河原美術展	湯河原町立図書館 3F
6/1 (月) ~6/7 (日) 住谷美知江展	0 ギャラリー(銀座) 03-3567-7772
6/22 (月) ~6/28 (日) 赤羽孝也展	0 ギャラリー(銀座) 03-3567-7772
6/8 (月) ~6/13 (土) 梅原美喜子展	ギャラリー檜(京橋) 03-6228-6361

東海道五十三次 22 石薬師宿(石薬師寺裏門)

5年をかけ、足で歩いたスケッチ紀行 松野光純



石薬師宿は、元和2年(1616)に置かれた東海道44番目の宿駅で、同宿内の高富山瑠璃院石薬師寺にちなんで宿場の名としたといわれている。

木立に囲まれた本堂は、江戸初期の桃山様式で、神戸城主一柳直盛の再建になるという。

御本尊薬師如来は花崗岩の自然石に浅く線彫りで刻まれており、弘法大師の作と伝えられている。これは秘仏で、毎年12月20日に里人の手で洗い清められているそうである。

この寺の東側を東海道が通っており、江戸時代参勤交代でこの地を通る大名は、道中の安全祈願を行っていたが、その際、山門から境内に下りる石段に丸みをつけ、足元に配慮したという石段が今も残されている。

思うことなど 横井山 泰



ギャラリー新九郎「箱ざんまい」無事に終了しました。みなさまありがとうございます。「いつもよりなにかいいね」という言葉をいただきました。3月のアートフェアの後にいろいろと考えることがあり、また言われて「何を引いて何を足すのか？」ということを考えてみました。まずは、ふと閃いた事に正直にやっ

みることにしました。【めんどくさい】【たいへんだ】【もうからない】という閃きのすぐ後にやってくる都合は止めることにして。そうしてみると「観なくてはい」は「観たい」「会わなくてはい」は「会いたい」となるので不思議なものです。都合でない作品を発表できたかな？志ららさん、瓶二さんの新九郎寄席も大盛況でした。ありがとうございます。翌週は大きな作品を収めに行ったり、昨年5月に「いくら時間がかかってもかまわない」と友人に頼まれた作品を渡したり、アートフェアの時の作品に合わせた額が出来上がってきたり、激しくうれしいウィークでした。気付けば栢山の田圃に水が引かれ土手の景色が二倍になって、一番好きな季節です。来月はアトリエ近くの小学生が社会科の町探検でアトリエにやってきました、新作のシリーズをはじめます。



茂登 山東 一郎 TOICHIRO MOTOYAMA 1940 小田原市生 1965 東京芸術大学油画科卒業、写真の絵は、3本の異なるビンが主役だと思います。ピンはそれだけでも他のものとり合わせても、よく描きます。透明なビンも、その上に白その他の色を塗った不透明なビンも、それぞれ良いものです。



澤岬盛勇 SEIYU TAKUSHI 1943 沖縄生 武蔵野美術大学造形学部油絵学科(通)卒業 近年、故郷沖縄を往き来している母校の裏山に、あのひめゆり部隊の陸軍病院壕跡がある。米軍の艦砲射撃の鉄の雨、火炎放射の火の海の中を逃げ惑う少女たち、沖縄戦地獄絵図 私は、やどりぎの里で平和を嘯みしめている



渋谷 武美 TAKEMI SHIBUYA 1941 山形県生 円鏑勝三氏に師事 親子でも、兄弟でも、男女でも、隣国でも然り、誓いを守る事が大事でしょう。



村松 均 HITOSHI MURAMATSU 1932 愛知県生 東京芸術大学油絵科卒 モチーフをどの様に描くかではなく空間に有る人物 物 風景の中の山あらゆる物を空気の中に表現する事が一番と思って作画して来ました



小泉 正彦 MASAHIKO KOIZUMI 1955 平塚市生 東京造形大学造形学部彫刻専攻 最近は西洋のチャーチなどにはよく見かけるニッチという場所に静物を配置して影が出来る様をいろいろ描いています。



藤井兼弘 KENKO HUIJI 1936 富山県生 武蔵野美術大学卒業 色面で画面を構成する作品作りから今は自然の中から感じられる「空間の実感」をリアルに描くことではなく画面の中に空気の様なものを感じられる様な作品にたく努力しております。



永井 均 HITOSHI NAGAI 1968 茨城県生 ARTBOX 大賞展(会友賞) リキテックスピエンナーレ(奨励賞) 心の中に拾い集めたものをキャンパスの上に置いていきます。



井関周 SHU ISEKI 1954 湯河原町生 創形美術学校卒。主に人物像を描いています。頭部に荘厳のある人物は神性を、水は浄化を、鳥は輪廻を、黄金の天体は愛を、など其々のモチーフは寓意的です。私の作品から死者の心の浄化などに思いを巡らせていただければと思います。

絵てがみ折々 一 小田原の暮らしの中で 野地 三恵



外出先で珍しい物があつたと言って、夫が飛び魚を買って来た。相模湾産の飛び魚。海面から飛び出して滑空するというこの魚の胸ビレや尾ビレは、広げて描こうとすると、葉書よりはみ出るくらい大きい。店の人に「なめろう」にするといいと勧められたそうなので、急いで描いた後、早速三枚におろした。味噌、ねぎ、生姜に、庭から取ってきた青紫蘇も加え、まな板の上でじっくり叩く。ひと口食べてみると、鯔のたたきとはまた一味違う味わいだった。つい先ほどまでそこにあった飛び魚が、今は跡形もなく、もう絵の中にしか残っていないのも不思議な気分だった。

5月のこと

■第68回小田原市美術展覧会の市長賞、「2015 夏リトルピープル」(平塚幹男氏作)は新鮮でユニークな木彫の作品だ。「リトルピープル」は村上春樹の小説「1Q84」からの発想だ。ひととき大きなリトルピープルが、大衆を導く者のように立つ。その前に建つピラミッドのような神殿へ巡礼に向かう、リトルピープルが連なる。90体に及ぶ群像の配置・構成が見事だ。木彫りの冬瓜を水平に寝かせたような、一つ目の顔(頭)が天を向き、合掌のポーズで立ち並ぶ。姿全体は丸みを帯び、神聖なシーンのなかにも何となくユーモラスな感が漂う。おそらく作家の人間性そのものが出てくるのだろう。今回の作品は、古代文明を連想させ、歴史(時間)的な厚み加わり、作品をより深いものになっている。彫刻での市長賞は珍しいが、十分に手応えのある作品であった。

■鴨宮の岩瀬邸・巨櫨の居(おおけやきのいえ)で民間裕写真展「日本の美を求めて放浪の旅」が開催された。元日経新聞記者で、仕事の合間をぬい、又退職後に全国を放浪し撮りためたものだ。関西への赴任が長く、文楽の公演を主催するなどした。早くから西欧文明の行き詰まりを見抜き、日本文化の特質・素晴らしさに気付き、それを求めて歩いた。写真展は「日本文化の見直しを！」の副題で文楽、ひな祭り、きもの、里山、さくらの作品である。いずれも日本の美しさを外連見なく捉えている。会場は江戸時代の豪農の家で、母屋と二つの蔵が中庭を囲み、樹齢200年の巨櫨3本が聳え心地よい木陰を作る。会場選びにも日本文化を大事にする姿勢が表れている。現役を退き小田原に戻り、いくつかの市民活動を立ち上げた。正月に長い竹を立てた小田原流門松を復活させたのが記憶に残る。これも氏主宰の「やんべえ倶楽部」によるものだ。日本文化に対する深い造詣に裏打ちされた、すばらしい写真展であった。㊦